

一、湖北省ニ於ケル「正式法院」（軍事裁判所以外ノ法廷

ヲ指スモノナラム）トシテハ當高等法院ノ外ニ高等法

院分院二ヶ處ト地方法院六ヶ處アリ成績ハ先ツ良好ノ

方ナルモ(イ)法律（ノ威嚴）ヲ維持スルノ廉白サ、(ロ)手

續ノ迅速、(ハ)「應酬」（饗應又ハ買收ノ意）ノ謝絶、

(ニ)「紛華」（紛糾及面倒）ノ回避等ノ諸點ニ付テハ當

「整頓」ノ餘地アリト認ム

二、各縣ニ於ケル司法ハ完全ニ獨立ノ保障アルヘキ筈ナル

モ司法ヲ行政ト分離スルコトハ事實上甚タ困難ナリ是

レ世人ノ爲太シク非難セラル、原因ニシテ實ニ左ノ如

キ各種ノ惡弊猶存在シ居リ之ヲ語ルサヘ苦痛ヲ感スル

次第ナリ即チ

(イ)審判委員ノ或者ハ劣紳ト應酬交際シ或者ハ地位ヲ利

用シテ親戚友人ヲ「委任」（官職ヲ與フル意）シテ

之ニ金錢出納ヲ司ラシメ、

(ウ)「文吏」「警吏」中ニハ罰金ヲ利用スル者アリ、又

收入ヲ不當ニ増加シテ私腹ヲ肥ヤス者アリ、供述ヲ

偽造スル者アリ、賄賂ヲ要求スル者アリ、地方ニ取

調ノ爲出張セハ訴訟當事者ヨリ所謂草鞋錢ヲ取り、

審問スレハ事務手數料ト力起訴費等種々雜多ノ名義

ヲ附シテ訴訟人ヨリ金錢ヲ擰取スル者アリ

三、武漢ニ於ケル監獄ハ軍憲ノ管轄ニ屬スル分ヲ除キ湖北

省第一監獄ト湖北省第二分監ノ二ヶ處ノ外ニ尙武漢看

守所ニケ處アリ建物ハ稍清潔ニシテ待遇モ往時ニ比ス

レハ稍改良セラレタル點アルモ衛生及教誨ノ點ニ於テ

ハ尙充分改善ノ必要アリト認ム

各縣監獄所ニ至リテハ昔日通り舊式ニシテ其ノ「腐敗」

ハ實ニ堪フヘカラサルモノアリ即チ建物ハ暗黒ニシテ

空氣ノ流通惡シク食料、衛生、雜髮、沐浴等ハ少シモ

注意セラレ居ラス、監獄トシテ必要ナル工場ト教室ノ

設備全然ナク、獄吏ハ囚徒ヲ肆ニ虐待シロ實ヲ設ケテ

金錢ヲ要求シハ食量ヲ減少シテ政府ヨリ支給スル囚

徒ノ食費ヲ私腹スル等監獄ハ金贏ケノ場所ト心得居ル

奸吏少カラス云々

右何等御参考迄報告申進ス

本信寫送付先 代理公使、北平、上海、天津、奉天、

青島、廣東、南京

### 3 中國沿海漁業・密輸問題

816

昭和5年1月18日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

上海航業公会が日本漁船の中國沿岸操業に抗議について

第六五號

十八日ノ中央日報ニ依レハ外交部ハ上海航業公會ヨリ最近日本漁船博多丸外十餘隻カ黃海ニ面スル支那沿海ニ於テ勝手ニ公然漁業ニ從事セルハ不都合ニ付今後再ヒ支那領海ニ於テ漁獲ヲセサル様日本政府ニ嚴重交渉アリタシトノ申出ニ基キ農工部ニ對シ日本漁船ノ漁業權侵害ニ關スル種々ノ事實詳細查報方沿海各省ニ通令方依頼セル趣ナリ

件支、上海、天津、青島、漢口、廈門ヘ轉電セリ

817 昭和5年2月(5)日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

内河航行権回収と中國内航業統一のため浙江省航政局新設について

818 昭和5年2月7日 在杭州米内山領事代理より  
幣原外務大臣宛

内河航行権回収と中國内航業統一のため浙江

昭和五年二月七日

在杭州

## 第三課 會計ニ關スル事項

第四課 文書統計庶務及其ノ他各課ニ屬セサル事項

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

浙江省航政局新設ニ關シ報告ノ件 領事代理 米内山 庸夫〔印〕

最近支那ニ於ケル内河航行権回収問題抬頭以來當地方ニ於テモ右航行権回収ノ輿論盛ントナリ而シテコノ目的ヲ達スル爲メニハ一面國內ノ航業ヲ發達セシメサルヘカラストノ主張モアリ其レカアラヌカ當浙江省政府ニ於テハ省内航政ノ統一ト航業ノ發達トヲ計ル爲メ浙江省航政局ヲ設立スルコトヽナリ二月六日別紙寫ノ通り浙江省航政局規定ヲ公布セリ

該航政局規定ニ依レハ浙江省航政局ハ省政府建設廳ニ直隸シ全省ノ航政ニ關スル事項ヲ掌ルモノニシテ局長一人、秘書一人、課長四人其ノ他技師、事務員等ヨリナリ全局ヲ四課ニ分チ其ノ分擔事務左ノ如シ

第一課 航業登記、許可書給與及管理取締ニ關スル事項

第二課 行船及航線上ノ一切ノ技術及設備ニ關スル事項

(別紙)

浙江省航政局規程

本信寫送付先 在支公使 上海、北平 在上海總領事 南京領事

右報告ス  
本信寫送付先 在支公使 上海、北平 在上海總領事 南京領事

尙ホ該航政局ハ必要ニ際シテハ自ラ航業ヲ經營シ並ニ造船所及船渠ヲ經營スルコトヲ得ルコトヽナリ居レリ(第十條)  
現在當浙江省ニ於テハ總テノ方面ニ官業主義ノ傾向著シク表ハレ居リ從來民間ノ經營タリシ電燈、電話、自動車路等モ漸次買收セラレ官營トナリシ、アリ殊ニ當省政府ノ方針トシテハ其ノ交通計畫ニハ多大ノ力ヲ注キ省内ノ重ナル自動車線總テ官營ニテ一部ノ現存仍ホ民營ナルモノモ將來ハ悉ク買收シ官營トスル方針ナリトノコトナルニ付右第十條ノ規定ハ將來各水路(杭州上海間、杭州蘇州間ニハ本邦戴生昌汽船會社營業)ニ對シ其ノ利害並ニ機會ヲ見テ漸次官業トスル意図ヲ含ムモノニアラスヤトモ認メラル

第一條 浙江省政府ハ航政建設ノ促進、航政事務權限統一ノ爲メニ浙江省航政局ヲ設立シ全省航政事務ヲ管掌シ省政府建設廳ニ直隸セシム

第二條 本局ニ左記各課ヲ置ク  
一、第一課 航業ノ登記、鑑札給付及管理取締ニ關スル事項ヲ掌ル

二、第二課 航行船舶及航路上ノ一切技術及設備ニ關スル事項ヲ掌ル

三、第三課 會計ニ關スル事項ヲ掌ル

四、第四課 文書統計庶務及其他各課ニ屬セサル事項ヲ掌ル

第五條 本局各課ニ各課長一人ヲ置キ局長ノ命ヲ承ケ主管事務ヲ掌ル

第六條 本局ニ局長一人ヲ置キ全局事務ヲ綜理セシム

第七條 本局ハ文書ノ收發淨書校正及其他雜務ヲ辦理セシムルタメニ事務員書記ヲ酌用スルコトヲ得

第八條 本局々長ハ建設廳ヨリ省政府ニ推薦ノ上任命ス第三課長ハ建設廳ヨリ委任シ秘書及其他ノ各課長ハ局長ヨリ建設廳ニ呈請ノ上委任シ、技術員課員稽察員ハ局長ヨリ委任シ、事務員書記ハ局長ヨリ雇用シ何レモ建設廳ニ報告スルモノトス

第九條 本局ハ全省ニ就キ區域ヲ畫分シ分局及移動事務所ヲ設立スルコトヲ得其ノ規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十條 本局ハ必要アル場合ハ自カラ航業ヲ經營シ造船廠及船渠ヲ設立スルコトヲ得

第十一條 本局辦事細則ハ局ヨリ擬訂シ建設廳ニ呈請ノ上之ヲ核定ス

第十二條 本規程ハ省政府公布ノ日ヨリ施行ス

以上

第五條 本局各課ニ各課長一人ヲ置キ局長ノ命ヲ承ケ主管事務ヲ分掌シ課員若干人ハ長官ノ命ヲ承ケ主管事務ヲ分掌

第六條 本局ニ航政上ニ關スル技術又ハ航務稽察辦理ノタ

メニ技術員、稽察員ヲ置クコトヲ得別辦理セシム

第七 雜 件

819 昭和5年2月26日 在上海重光總領事より  
幣原外務大臣宛

大連海關を除いて外国人吏員の採用を停止し

海關内に中国人の増加を図りつつある状況について

機密第二六五號

(3月6日接受)

昭和五年二月二十六日

在上海

總領事 重光 葵〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

支那稅關ノ外國人吏員採用ニ關スル件

本件ニ關シ一月十三日附堀内代理公使發本官宛<sup>ハ</sup>公第一號ヲ以テ申越ノ次第アリ當館ヨリ二月八日附別紙甲號<sup>〔番號〕</sup>寫ノ通り總稅務司署宛照會シ置キタル處二月十四日附別添乙號<sup>〔番號〕</sup>寫ノ

通り回答越アリタルカ二月二十五日總稅務司署勤務渡邊副稅務司ハ本件ニ關シ横竹商務參事官ニ對シ左ノ如ク語レル趣ナリ

(一)近來稅員ノ人事ハ殆ント財政部ノ意向ニ依リ動キ居ル次第ニテ右外國人不採用ノ方針モ財政部ノ訓令ニ基クモノニシテ從ツテ絶体的ノモノト認メラレ差支ナク最近大連海關ニ於テ日本人外勤員三名ヲ採用セントセルニ對シ始メ財政部ノ強硬ナル反対アリシカ總稅務司ヨリ大連ニ對

(二)從來ハ五十五才ニ達スレハ年金其他full benefitヲ受ケ自發的ニ退職スルコトヲ得六十才ニ達スレハ當然退職スルコトトナリ居タルカ本年一月ヨリ年齢ノ如何ヲ問ハス在勤三十年ノモノハfull benefitヲ受ケ自發的ニ退職スルコトヲ得三十五年以上ハ當然退職スルコトトナリMaze及Walshawチーフ、セクレタリーエ後者ニ相當セシヲ以テ一旦退職シ本年ヨリ新契約ノ下ニ勤務スルコトトナレリ

尙京城大學ニ對シテハ別添丙號<sup>〔番號〕</sup>ノ通り回答シ置ケリ右別添各號添付ノ上報告申進ス

本信寫送付先 北平 南京 奉天

820 昭和5年3月28日 在廈門寺島領事より  
幣原外務大臣宛

台灣諸港と中國南部内地港間との直接貿易方針内示方請訓

付記 七月三日起草幣原外務大臣より在廈門寺島領事宛通ニ機密号(廢案)  
台灣諸港と中國南部内地港間との直接貿易方針内示方請訓

機密第一一四號

昭和五年三月二十八日

在廈門

(4月11日接受)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿  
臺灣諸港ト南支内地港トノ間ノ直接貿易ニ從事スルモノニ密輸入スルモノニテ本來ナラハ戎克以外ノ船舶ハ一旦支

シテハ日本トノ協定アリ特殊ノ事情ニ依ル旨ヲ具陳シテ漸ク採用ニ決定セル次第ニシテ最近右日本人以外ノ外國名位)ヲ退職セシムルコトニ略ホ決定シ居ル趣ナリ近來外國人海關員ニシテ支那側ノ勢力ノ増大シ來ル海關内ノ空氣ニ嫌氣ヲサン殊ニ后述三十年以上在勤者中ニハ退職ヲ希望スルモノ渺ナカラサル模様ニシテ現ニ安東稅關長Bessel(一八九八年就任)モ既ニ辭表ヲ提出シ居リ江原(一八九九年就任)モ希望ニ依リ十月ニ退職スルヤニ傳ヘラル

(二)本年三月迄ニ外國人約五十名(内日本人外勤六名内勤二人ヲ採用セルコトナシ

那開港場ニ立寄リ内航許可證ノ發給ヲ受クヘキモノナル力  
(香港支那内港間ノ貿易ニ付テハ數年前ノ協定アルモ右ハ  
税關側ニテ申立居レリ)臺灣ト南支内地港トノ貿易ニ付テ  
ハ日支間ニ何等ノ取極ナク支那稅關ニモ從前ハ特別規則ナ  
ク從テ理論上ハ戎克ト雖モ内地航行ノ場合ニハ一般規則ニ  
シテハ密貿易ト認メラルヘク機船ニ付テハ排日運動中間々問  
題ヲ生シタル例ナキニ非ス(昭和三年五月二十九日附臺灣  
總督府總務長官宛諸官機密第九六號寫参照)而シテ臺灣ニ  
於テハ發動機船ハ之ヲ戎克ニ準シ内地貿易ヲ認メ居ルヤノ  
節アルカ海關側ニ於テ上記ノ如ク發動機船ニ對スル取締ヲ  
勵行スルニ至レル結果臺灣ヨリ内地ニ航行スル發動機船モ  
又一律捕獲セラルノ危險アリ幸ヒ最近其ノ事例ナキモ目  
下南支方面ノ海上ヲ航行スル日籍機船十數隻ニ上ルト稱セ  
ラレ其ノ高級乗組員ニハ日本内地人多ク影響スル處鮮少ナ  
ラス例令<sup>戎克同様</sup>正式ノ關稅ヲ支拂フトスルモ内地港ト直接貿易ス  
ル方有利ナルヘク臺灣南支間ノ從來ノ沿革ニモ徵シ日支間  
ニ何等力特別取極ヲ締結シ其ノ間ノ貿易ヲ安定セシムルコ

スルトセハ一ヶ月運賃收入二千五百圓以上ニ上リ船員給  
料燃料等ノ支出ハ約八百圓ニテ足ル趣ナレハ一ヶ月千數  
百圓ノ純收入アル勘定ナリ而シテ使用機船ハ老朽船ニシ  
テ臺灣ニ於テ完全ニ検査ヲ通過スル見込ナク要スルニ既  
ニ臺灣ニ於テ殆ント廢物トナレルモノヲ以テ奇利ヲ博セ  
ントスルモノナルヤニ見受ケラル右御含迄申添フ  
本信寫送附先  
上海總領事  
南京領事  
臺灣總督府總務長官  
(別添)

別添 海關告示ハ内地港直接出入り認メ居レルヤ

(欄外記入二)

記録ニハナシ

現行英支條約ニハ香港及支那不開港場間直接貿易ニ關スルモ  
ノナシ併シ芝罘協定第三款(七)ニ依レハ廣東稅關收稅船ノ香港  
ノジャシク船貿易ニ對スル干涉停止ノ目的ヲ以テ英支委員會  
ヲ任命シ清國ノ歲入保護方法ノ講究方ヲ規定シ居レリ(本件  
ハ明治九年ノコトナレハ委員會ノ成否會議内委員記録ナシ)

(欄外記入三)

右別添末尾に左の通り記入あり

右ニ依リ台灣及支那不開港間ノ貿易ヲ認メタリト称シ得ルヤ

編注 左の書き込みがある

(汽船同様内地港出入ヲ認メス從テ内地港出入發

爲佈告事照得凡往來臺灣厦门間之各民船自本年四月一日起

應向海關報告進口或出口並照章完納稅 合函佈告各船戶船

主一體知照可也此佈

民國十九年三月廿日

(付記)

通二機密第 号

昭和五年七月三日起草

ト必要ナラスヤト存セラル尤モ戎克貿易其ノモノノ存否ニ  
關シテハ相當考量ノ餘地アルヘク例ヘハ排日等ノ際ニハ右  
ニ依ルコト便宜多カルヘント雖モ右ハ一方ニ於テ禁制品ノ  
密輸ヲ增長スルノ嫌アリ特ニ臺灣ニ於ケル阿片密輸ノ大部  
分ハ戎克ニ依リ行ハル趣ナレハ此ノ種貿易ハ之ヲ公認セ  
サルコト得策ナルヘク又臺灣ヨリ戎克又ハ機船ニテ輸入ス  
ルトキハ諸掛ヲ節約シ得テ當地方ノ一般市價ヲ賣崩シ爲ニ  
善意ノ輸出入業者ノ利益ヲ害スル弊ナキニ非ス我國輸出ノ  
大勢上ヨリハ面白カラスト認メラルモ實際上此ノ種貿易  
ヲ有效ニ取締リ之ヲ絶滅スルコトハ極メテ困難ナル如ク若  
シ然リトセハ支那側ニ於テ既ニ戎克ニ付テハ今回上記ノ佈  
告ヲ發セル實狀ニモ鑑ミ進シテ發動機船貿易ノ存在モ日支  
兩國間ニ於テ明力ナラシムル方却ソテ賢明ノ策カトモ思考  
セラル本問題ハ條約改正ノ際討議セラルヘシトハ存セラル  
ルモ執務上ノ參考迄此ノ種貿易ニ對スル御方針御内示相煩  
度此段稟請ス

追而上記寶運丸及光榮丸ハ共ニ香港ヨリ航行シ來レルモ  
ノニテ香港支那内地間ノ運賃ハ通常一圓二三十錢ヲ徵シ  
居リ一ヶ月三航海ヲナシ得ル由ニテ一航海七萬斤ヲ積載

在廈門

領事 寺島 広文殿

台灣諸港ト南支内地港トノ間ノ直接貿易ニ關スル件

(欄外記入)  
本件ニ關シ本年三月二十八日附機密第一一四號貴信ヲ以テ  
御請訓ノ趣了承近來台灣籍發動機船ニシテ南支沿岸地方ニ  
於テ密貿易ニ從事スルモノ不尠ルカ如ク問題ヲ惹起セルコ  
ト一再ナラス關係領事ニ於テモ之力取締ノ爲台灣總督府側  
トモ照覆ヲ重ネ居ル次第ハ御承知ノ通ナル處御報告ニ依レ  
ハ貴地海關ニ於テハ取締困難ノ故ヲ以テ戎克ニ對シ内地貿

易ヲ默許スル方針ニ決定セル趣ナルヲ以テ本邦籍發動機船  
ニ對シテモ同様ノ取扱ヲ求ムルコトヲ得ルニ於テハ從來我  
方トシテモ實際上此ノ種小型船舶ノ取締ニ付テハ少カラズ  
困難ヲ藏シ居レル次第モアリ今後日支間紛議發生防止上此  
ノ際一策ナリトハ被認ルモ一方此ノ種密貿易ヲ公認スルニ  
付テハ御來示ノ通各種ノ弊害ヲ伴フ可ク此ノ點慎重考慮ノ  
要モ有之ノミナラス貴地海關今次ノ措置モ單ニ取締困難ノ  
故ヲ以テ戎克ニ對シ内地貿易ヲ默許セルニ止り進而本邦籍  
戎克ニ對シ内地貿易ニ關スル條約規定ニ對シ除外例ヲ認メ  
タル次第ニハ非サルヤニ被認レ右ヲ基礎トシテ發動機船ノ

内地貿易ニ関シ支那ニ對シ何等正式申入ヲナスモ實現ノ程  
モ疑ハシク旁目下ノ處我方トシテハ從來通取締方針ヲ以テ

臨ム外ナキモノト被認ル尤モ別添香港ヨリノ報告ニ依レハ  
目下英支間ニ於テ海關協定ニ關聯シ密輸防壓ノ爲內水航行

權問題ニ付何等商議進行中ノ趣ニ付右結果如何ニヨリテハ  
進而我方トシテ適當對策ヲ講スル要モ有之モノト被認ルモ  
此ノ際トンテハ前記ニヨリ御措置相成様致度シ

本信寫送附先 上海、南京、廣東、汕頭、福州、香港、  
台灣總督府

附屬書類 昭五、五、九、着香港發大臣宛暗電第三三三号バ

ラヲ甲号

同五、五、三、附香港案普通公第一三三三号・・・

乙号

トシ各寫作成廈門宛添附發送ノコト

(欄外記入) 廢

編注 本文書は廢案なるも参考のため「付記」とした。

821 昭和5年4月10日 在香港吉田總領事代理より  
幣原外務大臣宛

臺灣總督府  
總務長官 人見 次郎殿

臺灣籍發動機船ノ行動取締ニ關スル件

台灣籍發動機船の香港方面回航は密輸船の回  
航と共に嚴重取締る様地方官憲に通達方台灣  
総督府總務長官に依頼について  
機密公第八八號  
(4月28日接受)

昭和五年四月十日

在香港

總領事代理 吉田 丹一郎〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

昭和五年四月十日附機密諸公第一二號本官發

臺灣總督府總務長官宛公信寫送附

件名

臺灣籍發動機船ノ行動取締ニ關スル件

機密諸公第一二號

昭和五年四月十日

在香港

總領事代理 吉田 丹一郎  
七 雜 件

臺灣籍發動機船ノ行動取締ニ關スル件  
機密諸公第一二號  
昭和五年四月十日附機密諸公第一二號本官發  
臺灣總督府總務長官宛公信寫送附  
件名  
臺灣籍發動機船ノ行動取締ニ關スル件  
機密諸公第一二號  
昭和五年四月十日

然御處置相成様致度

右ノ如キ密航ヲ目的トスル發動機船力今後支那沿岸ヲ續航  
スル時ハ對外事件ノ續發ヲ免レス且日下日支間ニ條約改正  
交渉中ノコトニモ有之當館ニ於テモ嚴重取締リツツ有ル折  
柄高雄港船籍前記海德丸ト同一船主劉南田ノ所有スル發動  
機船啓富丸（總噸數四三噸八六）ハ検査證書ニ南臺灣沿岸  
航路ノ限定アルニ拘ラス高雄官憲ニ於テ許可セラレタル  
由ヲ以テ同港々務局下附ノ香港行正規ノ出港許可證ヲ持參

本月五日當地ニ入港シ來リ高雄ニ回航シ度趣ヲ以テ當館ニ

出港許可方願出來リタル處既ニ高雄官憲ニ於テ正規ノ許可

ヲ下附シ居ル次第ナルヲ以テ必ス高雄ニ直航スヘキ様嚴重

言渡シタル上一應出港許可シ置キタルカ近來當館取締リ嚴  
重ナル爲メ香港汕頭方面在住者ニシテ此ノ種方面ノ消息ニ

精通スル者或ハ高雄方面同業者ト聯絡ヲ計リ新ニ發動機船

ヲ回航セシメ歸途高雄ニ直航スト稱シ其ノ實支那沿岸ニ寄

港密貿易ヲ營ム策ヲ講スル者無キヲ保シ難ク臺灣籍發動機

船ノ行動ニ關シテハ支那官憲ニ於テモ相當注視ノ折柄臺灣

沿岸航行船ニ對シ新ニ香港回港ヲ許可スルカ如キ事ハ臺灣

官憲ニ於テ却テ密航ヲ獎勵スルニアラスヤトノ誤解ヲ招ク

822 昭和5年5月(4)日

在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

浙江省東岸で操業の日本漁船は中國主權侵害  
と外交部より覺書送付越しについて

付記 六月五日付在南京上村領事より幣原外務大臣宛機密送第三七六号公信

「支那沿岸ニ於ケル日本漁船ノ漁獵ニ閔ス  
ル外交部覺書転達ノ件」

南京

本省 5月4日後着

第四五六八號

本官發上海宛電報  
第四六四號

昭和五年六月五日附  
機密公領第九九號 重光代理公使 宛公信寫付  
件名

支那沿岸ニ於ケル日本漁船ノ漁獵ニ關スル外交部覺書  
轉達ノ件

外交部ヨリ三日附覺書ヲ以テ今春以來浙江省東岸支那領海  
ニ於テ漁獵スル日本漁船二千餘隻ノ多キニ達シ之等支那漁  
船ヲ迫害シテ作業セシメサルニ付損害甚大ナル處最近ハ東

海縣臨洪口ト青島トノ間ニ於テ日本軍艦掩護ノ下二十餘隻

ノ漁船自由ニ漁獵シ支那漁船ノ同處附近ニ於ケル漁獵ヲ全

然禁止セル爲支那漁家ハ生計ヲ斷タレントシ居レルカ右ハ

中國主權ノ侵害ナルニ付該日本漁船ヲ速ニ退去セシムルト

共ニ前記支那ノ漁業區域ニ於テ今後再ヒ漁獵セシメサル様

取計ヒアリタキ旨申越セリ原文郵送ス

大臣、北平、青島へ轉電セリ

（付記）

機密送第三七六號

昭和五年六月五日

（6月16日接受）

在南京

領事 上村 伸一〔印〕

本件外交部覺書別紙ノ通轉達ス御查收相成度

往電第四六四號ニ關シ

覺書轉達ノ件

支那沿岸ニ於ケル日本漁船ノ漁獵ニ關スル外交部

在支那

臨時代理公使 重光 葵殿

在南京

領事 上村 伸一

本件外交部覺書別紙ノ通轉達ス御查收相成度

本信寫送付先 大臣 北平 青島

虞ナシト言ヒ難キヲ以テ今後此種發動機船ノ當地方面同航  
ハ絕對許可セラレサル様嚴重取締方前述違法船舶ノ回航方  
ト共地方官憲ニ御通達相煩度此段御依頼ス

本信寫送附先 外務大臣 在上海代理公使  
上海、廣東、福州各總領事

南京、廈門、汕頭各領事  
在北平矢野書記官

(別紙)

節 略

迭據報告今春以來日本漁船闖入我國浙東領海在該洋捕魚者計有二千餘艘之多東西弋獵縱橫海面中國漁船近之即遭碎撞奪我帆檣破我漁網致令我國漁船停棹不前蒙受重大損害最近東海縣臨洪口與青島間之海面竟有日本兵艦一艘率領漁船十數隻滿佈臨洪口外及<sup>泰山</sup>泰山一帶自由捕魚兵艦則往來梭巡以掩護其漁船凡我漁船往近該處捕魚則一概禁止否則遭其兵艦猛撞我國漁戶生計將為斷絕查日本漁輪侵入中國領海自由捕魚對於中國漁船奪帆破網任意蹂躪並有日本兵艦往來梭巡禁阻華方漁民捕魚甚至猛撞漁船實屬侵害中國主權應請查照迅令各該日本漁輪即行使離上遠中國各漁業區域不得再在各該處捕魚並希見復為荷 十九年六月三日

(右訳文)

支那沿海ニ於ケル日本漁船ノ漁撈ニ對スル外交部覺書

(昭和五年六月三日南京上村領事ニ送付シ來レルモノ)

屢次ノ報告ニ據レハ今春以來日本漁船ニシテ我國浙江省東部領海ニ闖入シ該洋ニ在リテ捕魚スルモノ二千餘隻ノ多キ

ニ達シ東西ニ弋獵シ海面ヲ縱横シ中國漁船之ニ近付カハ之ヲ撞碎シ我帆檣ヲ奪ヒ我漁網ヲ破リ我國漁船ヲシテ前進不能ナラシメ以テ重大ナル損害ヲ蒙ラシムト云フ又最近東海縣臨洪口ト青島トノ間ノ海面ニ突如日本軍艦一隻漁船十數隻ヲ率ヒテ現レ日本漁船ハ臨洪口外及泰山以東一帶ノ海面ニ散布シテ自由ニ捕魚シ軍艦ハ往來巡弋シテ其ノ漁船ヲ掩護シ凡ソ我漁船ニシテ該處ニ近付キテ捕魚スルモノアラハ斷然禁止シ之ニ達ハハ軍艦ノ猛撞スルニ遭ヒ我國漁夫ノ生計ハ將ニ斷絶セントスト云フ查スルニ日本漁輪カ我中國領海ニ侵入シテ自由ニ捕魚シ中國漁船ニ對シテ帆ヲ奪ヒ網ヲ破ル等任意蹂躪シ又一方日本軍艦カ往來巡弋シテ中國漁民ノ捕魚ヲ禁阻シ剩ヘ漁船ニ猛撞スルカ如キニ至リテハ實ニ中國主權ヲ侵害スルモノナルニ付茲ニ照會ヲ御查閱ノ上速ニ各該日本漁船ニ對シ上述ノ各中國漁業區域ヲ離レ再各該處ニ於テ捕魚ニ從事スルコトヲ得サルヘキ旨命令セラレ結果何分ノ儀御回答ヲ請フ 民國十九年六月三日

823 昭和5年5月9日 在香港吉田總領事代理より  
幣原外務大臣宛(電報)

香港より廣東沿岸諸港への密輸取締りのため  
メーブ総稅務司が香港政厅と商議開始との新聞報道について

付記 昭和四年七月二十五日付在廣東矢野總領事

より幣原外務大臣宛機密公第三九三号公信

「密輸入取締内河航行権問題等ニ関シ「メーブ」ト香港政厅間ノ交渉ニ關スル件」

香港 5月9日後発  
本省 5月9日後着

第三三號

香港ヨリ廣東沿岸各港ニ向ケ外國貨物ノ密輸入激増シ海關

收入ノ損失鮮カラサルニ鑑ミ支那側ハ之力防遏ノ目的ヲ以

テ客年中「メーブ」ノ立案ニ基キ香港政廳ト海關協定ヲ商

議セルモ香港側要求ノ容レラレサル爲停頓セル旨傳ヘラレ

居ル處後三週間前ノ倫敦電報ハ本件商議ハ右兩政府間秘密

件裡ニ再開セラレタル旨報道セリ右双方ノ交渉條件ハ不明ナ

ルモ五月八日南京「ロイテル」通信ハ總稅務司「メーブ」

カ本件協定ノ爲再度香港ヲ訪問スヘキコトト共ニ(脱)ナリノ「メ」協定案ハ英國側カ香港汽船ノ支那内水航行権獲

(付記)

(8月7日接受)

在廣東

總領事 矢野 真 [印]

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

密輸入取締内河航行権問題等ニ關シ「メーツ」ト香港

政廳間ノ交渉ニ關スル件

曩ニ宋子文來廣ノ用向中ニ香港ヨリノ密輸入取締ノ問題研

究モ含マレ居ル旨在支英國公使ヨリ當地總領事ニ注意シ來

レルコト當時同總領事代理ヨリ内報ニ接シ居タルカ「メー

ズ」過日來香港ニ來リ香港政廳側ト内密會談中ノ趣聞込ア

リ尙「メ」ハ二十四日一泊ノ予定ニテ來廣セルニ付二十五

日英國總領事代理ヲ往訪シ試ニ「メ」來香ノ目的ハ密輸入

問題協議ノ爲ナルヘキ處進行ノ模様如何ト尋ネタル處同代

理ハ本官限リノ含ミ迄ニ極秘トシテ往電第一〇〇號ノ通内

話シ尙

香港ヲ起點トスル船運業ニ引繼キ内河航行権ヲ認メシ

メ及香港ニ支那條約港トシテノ便宜ヲ與ヘシムルコト

ハ香港繁榮ノ現狀ヲ維持シ且將來之力發展ヲ計ル爲緊

要缺クヘカラサルコトナル不已而追テ開カルヘキ新英

支條約ノ交渉ノ爲ニモ豫メ我方ニ有利ノ地歩ヲ占メシ

ムル所以ナルヲ以テ今回ハ香港政廳側ニ於テモ特ニ力

瘤ヲ入レ居レリ尤今回ノ協定ニ依リ香港ノ領土内ニ支

那ノ行政権ノ活動ヲ認ムルコトトナリ純粹ノ法理論ヨ  
リセハ多少ノ批難ハアルヘキモ自分等ハ右協定ニ依リ  
收ムヘキ實益ハ之ニ依リ失フヘキ形式上ノ損失ニ比シ  
多大ナルコト勿論ナル故飽ク迄之カ成立ヲ希望シ居リ  
又之力成立可能ヲ信シ居レリ

尙「メーツ」ハ自分ニ對シ若シ今回ノ協定不成立ニ終  
ルカ如キコトアラハ宋子文ハ密輸防止ノ爲嚴重ノ手段  
ヲ執ル決心ナリ

ト附言セリ

尙同總領事代理ハ本官ノ乞ニ應シ絕對ニ極秘扱トスルヲ條  
件トシ本件協議ノ内容ヲ記載セル別紙(省略)寫ノ如キ同總領事代  
理發在使英國公使宛ノ報告書ヲ内示セリ

要之内河航行権問題ハ日支新條約交渉ニ於テモ難問ノ一タ  
ルヘク又香港ニ支那條約港タルノ地位ヲ認ムル件ニ付テハ  
嘗テ臺灣基隆ニ關シ同様ノ議論アリ旁々何等御參考迄ニ前  
記ノ次第報告ス

追而別紙ハ英國總領事代理力全然友人ノ關係ニ於テ本官

ニ内示シタルモノ(三枚)付同人希望ノ如ク極秘扱ヲ乞フ

本信寫送附先

在支公使 在上海總領事

~~~~~  
在支那

824

昭和5年6月16日 在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛

日本漁船は公海上で操業し何等中國漁船を妨害し  
ていない旨外交部へ回答について

機密公第一一八號

(6月23日接受)

昭和五年六月十六日

(別紙)

臨時代理公使 重光 葵 [印]

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

昭和五年六月十六日附在南京上村領事宛機密公第八七號信  
寫送付

支那沿岸ニ於ケル日本漁船ノ漁獵ニ關スル件

機密公第八七號

昭和五年六月十六日

在支那

臨時代理公使 重光 葵

本六月三日附外交部覺書ヲ以テ日本漁船出漁ノ件ニ關シ照  
會ノ趣閱悉セリ。然ルニ、關係ノ向ニ移牒シ取調タル所ニ  
依レハ日本漁船ハ何レモ公海ニ於テ就業シ居リ、且ツ日支  
兩國人間ノ關係モ極メテ圓滿ニシテ日本漁船力中國漁船ヲ  
迫害シテ作業ヲナサンメサル等ノ事實無之趣ナリ。尙此等  
漁船就業方面ニ日本政府ノ取締艦船ヲ巡航セシメアルハ事  
實ナルモ、右ハ全方面海賊ノ危險アルニ鑑ミ日本漁船ニ對  
シ保護ヲ與フルト共ニ此等漁船ニ於テ萬ニモ不正ノ行爲  
ナキ様取締ノ爲派遣セルモノニシテ、何等他意アル次第ニ

非ス。况シヤ日本艦船力中國漁船ノ漁獵ニ妨害ヲ加ヘタリ  
ト云フカ如キハ全然事實無根ナリ。就テハ中國側ニ於テ取  
締艦船派遣ノ場合ニハ日本側ト克ク協調ヲ保チ圓滿措置セ  
シムル様致度、右回答申進ス。

昭和五年六月十六日

一、石油發動機船ニ關スル件  
機密第一三五號  
昭和五年七月二十一日

在汕頭

領事 別府 熊吉

在廈門

領事 寺嶋 廣文殿

石油發動機船ニ關スル件

台灣籍發動機船の中國南部沿岸への航行増加  
の傾向に關し關係各公館で一定の方針のもと  
取締方意見上申について  
（8月1日接受）

機密第二八三號  
昭和五年七月二十一日

在汕頭

領事 別府 熊吉 [印]

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

昭和五年七月二十一日附 機密第一三五號

廈門領事宛公信寫送付

件 名

本件ニ關シ（本月十八日附臺灣總督府總務長官宛臺機密第一一八號拙信寫參照）當地ニ於ケル狀況及通報置キタル處ナルカ高雄、基隆方面ヨリ南支沿岸ニ同航内河貿易ノ目的ニテ發動機船ノ逐次增加スルノ虞レナシトセス從來ノ實例モシキ事ナルモ無制限ニ許可ヲ與フルニ於テハ支那側同業者トノ競争トナリ收支償ハサル結果ハ遂ヒ不正行爲ノ手段ヲ採リ種々ノ事件ヲ惹起スルノ虞レナシトセス從來ノ實例モアリ此際關係各館ノ間ニ一定セル方針ノ下ニ取締方可然力ト認メラルニ付テハ左記五項ニ付特ニ連絡ヲ保ツ事ニ得貴意度此段申進ス

記

臺灣總督、

一、内河航行營業者ニハ特ニ遵守スヘキ命令ヲ發スルコト  
(當館ニ於テハ臺機密第一一八號寫「參照」添付甲號寫命  
令書ヲ交付ス)

二、新ニ航行出願者ニ對シ許可シ又ハ不許可處分ニ付シタル場合ハ關係各館へ通報スルコト

但シ不許可處分ノ場合ハ其理由ヲ附記スルコト

三、他館ニ於テ不許可處分ニ付シ其通報ニ接シ居ル者ニ對シテハ各館共成同一方針ヲ取ルコト

但シ止ムヲ得サル事情アリ許可シタル場合ハ第二項ニヨリ通報ノ際其理由ヲ附記スルコト

四、船長ハ本邦人(内臺人)タルコトヲ要スルコト

五、出願地ニ責任者ノ在住若クハ代理人(内臺人)ヲ指定シ届出セシメ置クコト

本信送付先

廣東總領事代理、福州總領事、

寫送付先

外務大臣、

香港總領事代理、

二、就テハ赤色旗ヲ掲ケタル海關「ランチ」ヲ認メタル船舶ハ停船又ハ徐行シ之等搜查隊及警備司令部検査員（「イスペクチング、オフィサー」）ヲ乗船セシムヘン  
尙領事團ニ對シテハ正式通告ナク又臨檢ハ未タ實施ニ至ラ  
サルモ不取敢

北平、上海、南京、奉天、青島、芝罘、漢口、廣東、關東長官へ轉電セリ

（別紙）

〔寫〕甲号  
昭和四年十二月十八日

827 昭和5年8月28日 在香港吉田總領事代理より  
幣原外務大臣宛

（香港） 在香港吉田總領事代理より  
幣原外務大臣宛

中國南部沿岸方面の密輸取締りにつき台灣總督府より申し越しについて

機密公第二八四號

昭和五年八月二十八日

（9月25日接受）

在香港

總領事代理 領事 吉田 丹一郎〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

南支方面ニ於ケル不開港場出入船舶並密貿易船ノ取締ニ關スル件

本件ニ關シ客年十二月十八日附交遞海第八九五號ノ一ヲ以テ臺灣總督府交通局總長ヨリ別紙甲號ノ通申越アリ本年八月二十八日附機密諸公第二八四號ヲ以テ別紙乙號ノ通同總長宛回答シ置キタルニ付右寫送附ス

交遞海第八九五號ノ一

（香港） 香港總領事殿

臺灣總督府 交通局總長〔印〕

〔寫〕甲号  
昭和四年十二月十八日

首題ノ件ニ關シ別紙寫ノ通り各州廳水產會長宛嚴重注意方申送置候へ共貴地港務局ヨリ交付ヲ受ケタル出港免狀面ノ仕向地ニ歸港セシシテ其ノ儘沿岸ニ止マリ貨客ノ運送ヲ爲シ或ハ歸港ノ途次漁業ニ從事シ長期間ヲ經テ漸ク入港シ來ルカ如キ事有之哉モ計リ難ク斯クテハ貴港出帆以來相當ノ日數ヲ經過スル事トテ當地官廳ノ取調モ困難ト相成今回折

南支方面ニ於ケル不開港場出入船舶並密貿易船ノ取締ニ關スル件

角貴館ト港務局トノ間ニ協定相成候取締ノ御方針ヲ無意義ニ終ラシムル様ノ事有之候テハ甚タ遺憾ニ存候ニ付當地入港船舶ノ提出スヘキ入港留居カト前記出港免狀トヲ對照シ相互

ニ於テ取締ヲ爲スコトニ致候ハバ右反則船防止上相當好果ヲ得ラルモノト被考候就テハ御手數乍ラ貴館ヨリ證明書ヲ交付セラレタルモノ及港務局ニ於テ出港免狀ヲ受ケタル船舶名、所有者、出港月日何卒月末取纏メ御通知相煩度此段及御依頼候

思料セル向モ有之候由ナルモ今後ハ同地日本總領事館ノ相當證明書ヲ有スルモノニ非サレハ港務局ハ該免狀ヲ交付セサル事ニ協定相成候趣ニ付爲念及通報候

尙近來本島置籍船ニシテ領事館ニ對スル届出及航海日誌ノ檢閱ヲ怠リ或ハ出港免狀面ノ仕向地ニ歸港セシシテ其儘對岸又ハ南洋方面ノ不開港地ニ出入シ密貿易ヲ營ミ爲メニ同方面ノ官憲ヨリ抗議ヲ受ケタル事有之然モ之等ノ船舶ハ最初本島出帆ノ際ハ漁業ノ目的ト稱シ對岸ニ至リ竊カニ貨客ノ運送ニ從事スルヤノ聞コヘモアリ遺憾ニ存居候右ニ關シ不開港場出入船舶並密貿易船ニ對シ將來右様ノ違反者ナ

キ様嚴重御注意相煩度追而最近香港々務局ヨリ出港免狀ノ交付ヲ受ケタル發動機船別紙ノ通リニ有之參考ノ爲及送附ス（別紙略ス）

〔寫〕乙号

（香港） 貿易局總長

昭和四年十二月五日

〔寫〕乙号

各州廳水產會長殿

交遞海第八九五號

南支方面ニ於ケル不開港場出入船舶並密貿易船ノ取締ニ關スル件

七 雜 件

本島在籍發動機船ニシテ香港出帆ニ際シテハ同地港務局ヨリ出港免狀ノ交附ヲ受ケタルノミニテ出港差支ナキモノト

機密諸公第二八四號

〔寫〕乙号

昭和五年八月二十八日

在香港

總領事代理 領事 吉田 丹一郎

天津 8月29日後發  
本省 8月30日前着

臺灣總督府

交通局總長殿

第三九七號（至急）  
往電第三九六號ニ關シ

南支方面ニ於ケル不開港場出入船舶並密貿易船ノ取締

ニ關スル件

昭和四年十二月十八日附交遞海第八九五號及昭和五年八月四日附交遞海第四七三號貴信ニ關シ南支方面出入船舶並密貿易船ニ對シテハ貴地ニ於テ香港政廳港務局下附ニ係ル出港免許ト貴地入港船舶ノ提出スヘキ入港届ヲ對照シ相互ニ於テ取締ヲ爲スニ於テハ本件反則船防止上相當效果ヲ得ラルヘキコト貴信ト同意見ニ付將來ハ定期的ニ右港務局出港免許通報スルコトニ取計フ可ク尙本年一月ヨリ最近ニ至ル出港免許表別紙<sup>(省略)</sup>ノ通送附ス

本信寫送附先 外務大臣

828 昭和5年8月29日 在天津田尻總領事代理より  
幣原外務大臣宛（電報）

中國側臨檢搜査に關し當面の我が方対策について

四默認スルコト

(イ)我方出張官憲又ハ豫メ當館ノ承諾ヲ得タル人物ニ限り船上ニテ引渡スヘキヤ若ハ

(ロ)船舶當地到着ニ際シ特別區ニ繫留ノ場合ハ下船ニ當リ支那側力直接逮捕シ英佛租界ノ場合ハ當該領事ノ承認ヲ得逮捕スルコトセシムヘキヤ

ヲモ考究スル要アリト思料セラル處何分ノ儀御回電相成度シ

尙三十日上海ヨリノ入港船一アリ萬一臨檢セラル場合ハ不敢警備司令ニ對シ抗議スル所存ナリ  
前電ノ通轉電セリ

829 昭和5年11月1日 在中國矢野公使館參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）

密輸取締りに關する香港政厅・海關間の交渉  
で英國は内河航行権の獲得を対償としていた  
い旨ファンブソン英國公使談話について

七 雜 件

本邦船ニ對スル稅關側ノ検査ハ已ムヲ得サル可キ處警備司令部員ニ依ル臨檢ニ就テハ一面南方及共產黨ニ對スル示威宣傳多分ニ含マレ居リ又主トシテ支那籍船舶ヲ目的トスルモノノ如クニシテ或ハ英國側トノ振合上之ヲ默認スルモ船會社ニトリテハ甚タシキ不都合無カルヘキ見込ナルカ他面主義上ノ問題トシテ長江方面ニ對スル影響ヲモ考慮スル要アリ之カ對策トシテハ差當リ  
(一)驅逐艦又ハ駐屯軍兵力ニ依リ實力阻止ヲナスコト（駐屯軍側ハ事件カ白河ノ自由航行ヲ阻害スルモノニ付强硬ナル態度ニ出ツルヲ要スト力説シ居レリ）  
(二)我方軍憲又ハ警察官ヲシテ支那側ト同時ニ乗船セシメ主義上我方カ主トナリ臨檢ヲ行フ立前トナスコト  
(三)警備司令部ニ對シ表面上正式抗議ヲ提出スルモ事實ニ於テハ司令部員ヲ稅關吏ニ任命セシメ總テ稅關ノ手ニ依ル搜査臨檢トナサシメ支那側ノ目的ヲ達セシムルコト

第七八一號  
香港發閣下宛電報第八七號ニ關シ  
卅一日會談ノ際本官ヨリ「ランブソン」ニ對シ本件英支交涉進行ノ情報アル處事實ナリヤト問ヒタルニ「ラ」ハ右ハ事實ナリト前置シ本件ニハ永キ經緯アリ種々行惱ミノ結果香港側カ支那ニ多大ノ「フェーバー」ヲ與フル意味ノ協定ニ到達セル處右內容ニ付自分ノ承知スル處ニ依レハ總稅務司カ豫メ香港總督ノ同意ヲ經タル上英國人ノ「コンミッシヨナー」ヲ香港ノ稅關ニ任命派遣シ右派遣員ハ香港稅關ノ一員トナリテ專ラ香支双方ノ爲ニ密輸ノ防止事務ニ當ルヘクノ補佐員ハ多分支那人ナルヘシト語レルニ付本官ヨリ自分廣東在勤時代ニ得タル情報（客年七月廿五日附機密第393號等拙信參照）ニ依レハ英國ハ支那側ニ對スル「フェーバー」ノ對償トシテ内河航行権ノ獲得ヲ持出セル由ナリシカ如何ト尋ネタル處「ラ」ハ其ノ案ハ自分等ノ意見ニ依リ其ノ後取止トナレリ其ノ理由ハ(1)本件ハ英國側ヨリ如何ニ主張スルモ支那側ニテ應諾困難ナルヘキコト(2)香港及

廣東廣州間ノ航路ニ從業中ノ船會社ハ英國ノ船舶法ニ依リ

香港ニ登録セルモ資本關係ハ大部分支那ノモノナルニ顧ミ  
此ノ際本件ヲ主張シテ英國國旗濫用ノ機會ヲ多クスルヲ好  
マサルコトハ内地航行問題ノ如キハ支那全般ニ亘ル大問題

ニテ當然公使力交渉スヘク香港總督力關與スルハ筋道ニア  
ラサルコト等ニアリ要スルニ密輸防止ハ支那ノ爲ノミナラ  
ス自由港タル香港ノ正當繁榮ニ對スル障害ヲ除ク意味ニ於

テ英國ニ對シテモ利益アリ從テ本件密輸防止ノ協定ハ夫レ  
自身ノ「メリット」ニ於テ爲サルモノニ別段對償ヲ求  
メサル次第ナリト説明セリ

上海、南京、香港、廣東ニ轉電セリ

830 昭和5年11月3日 在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛 (電報)

密輸取締りに関する香港との協定ほぼ成功の  
ところ次は台灣總督府との間で行いたき旨宋

財政部長談話について

上 海 11月3日前發  
本 省 11月3日後着

公第一〇四七號

一日會見ノ際宋財政部長ハ「メーブ」ガ自分ト同行香港ニ  
到リタルハ密輸入防止ヲ目的トスル取締ヲ香港政廳ト行フ  
爲ニシテ多分成功スルコト思ハル右ノ密輸入ハ年額約四  
百萬元ナリ尙臺灣方面ヨリスル密輸ニ付テモ漸次日本側ト  
協議シタキ意図ナリト述ヘ居タリ

北平、奉天へ轉電シ南京へ暗送セリ

831 昭和5年11月10日 在上海重光總領事より  
幣原外務大臣宛

中國沿岸漁民救濟のため上海市商會が日本漁

船の取締りを工商部に請願について

公信第一五四六號  
昭和五年十一月十日  
(11月26日接受)

在上海

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿  
上海市商會ノ漁民救濟辦法ニ關スル件

本邦漁船ノ支那近海ニ於ケル漁撈反對ニ關シテハ累次報告

ノ通リナル處本十日ノ當地申報報道ニ依レハ上海市商會ハ  
南京工商部ニ電報シ沿岸支那漁民ノ生計ヲ維持スル爲  
(一)外交部ニ請求シ日本漁船ノ支那領海内ニ於ケル漁撈禁  
止方ヲ日本ニ交渉スルコト

(二)國民政府ニ對シ全國漁商ニ命令シ日本漁船ヨリ魚類ノ  
買取りヲ禁止スルコト

(三)鹽稅ヲ改良スルコト

(四)私稅徵收ヲ嚴禁スルコト

(五)水陸空軍ヲシテ海賊討伐ヲ爲サシムルコト

(六)軍艦ヲ增派シテ漁民ヲ保護スルコト

等ヲ請願シタル趣ナルカ右ノ内日本漁船ノ支那領海内ノ漁

撈問題ニ關シテハ支那ニ於テモ既ニ屢々日本ニ交渉シタル  
カ日本側ニ於テハ其ノ漁撈區域ハ公海ニシテ決シテ支那ノ  
領海權ヲ侵害セスト稱シ居ル處領海ヲ三海里トセルハ舊國  
國際法上ノ議論ニシテ武器進歩セル今日ニ於テハ領海ハ必ス

シモ三海里ニ限ルヘキモノニ非ストナス說有力ニシテ日本

漁船ノ漁撈區域力公海ナルヤ否ヤハ單ニ日本側ノ主張ノミ  
ヲ聞キテ満足スヘキニ非サルヲ以テ海軍部ニ照會シ絶エス  
軍艦ヲシテ近海ヲ遊弋セシメ日本漁船力領海内ニ於テ漁撈

公第一一一五號  
二十一日「イングラム」ト會見ノ際「イ」ハ「メイズ」ト

本 省 上 海 11月22日後発  
本 省 11月22日後着

832 昭和5年11月22日 在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛 (電報)

中央政治會議で香港政廳・海關間の協定否決

について

本 信 寫送付先 北平 天津 青島 福州 廣東 南京  
奉天 芝罘 關東廳

香港政廳トノ間ニ成立セル密輸入防止ノ爲ノ取極ハ大體支那ノ海關監督ノ代表ヲ香港稅關ノ役人トシテ置キ其ノ俸給

及其ノ他經費ハ香港政廳ヲ經テ支出スルコトトン香港ノ主

權關係ノ問題ヲ避ケ尙其ノ下ニ事實上ノ密輸入防止ノ爲ノ

支那人吏員ヲ置ク計畫ナリシカ元來本件密輸入ニ依ル關稅

損失ハ年額數百萬元ニ及ヒ特ニ中山自由港設置以來一週間

ニ三千五百箱ノヨリカ中山港ニ輸入セラレ全部之ヲ奥地ニ

密輸入セラレタルカ如キ狀態ナレハ是非共之ヲ防止スル

(コト)必要ナリシ次第ニテ從テ宋子文モ「メ」ノ提議ニ

依リ直ニ中山港ノ密輸入防止ニ必要ナル命令ヲ「メ」ニ與

ヘタリ然ルニ不幸ニシテ中山港ヲ出生地トスル唐紹儀及其

ノ一派ハ大イニ之ニ反対シ(唐ハ同地ニ廣大ナル土地ヲ有

ス)右密輸ニ利害關係ヲ有スル廣東商人モ加ハリ反対運動

ヲ爲シ終ニ陳銘樞等ニ依リ中央政治會議ノ議ニ上シタル結果

前記香港政廳トノ協定ハ種々ノ口實ノ下ニ否決セラル

ニ至リタル次第ナリト語レリ御参考迄

北平、奉天、香港、廣東へ轉電シ南京、上海へ暗送セリ

833 昭和5年12月13日 在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)  
密輸取締り調査のため台灣當局へ人員派遣方

につき宋財政部長より申し入れについて

上 海 12月13日後発  
本省 12月13日後着

公第一二一五號

十二日宋財政部長ハ本官ニ對シ臺灣ヨリノ密輸入問題ニ付

事情ヲ調査シ日本側ノ意見ヲ聞ク爲然ルヘキ人ヲ臺灣總督

府ニ派遣セント思ヒ居ル處貴見如何ト尋ネタルニ付本官ハ

右ハ何等故障ナキコトト思考スルモ兔モ角政府ノ内意ヲ問合セタル上返事スヘキ旨述ヘ置キタリ

右ハ單ニ視察旁事情聽取ノ爲一時的二人ヲ派遣スル次第ナ

レハ總督府ニ於テ寧ロ好意ヲ以テ迎フル様セラルレハ好都合ニ存ス右御意図御回電ヲ請フ

上海、南京、廈門へ暗送セリ

834 昭和5年12月22日 币原外務大臣より  
在中國重光臨時代理公使宛(電報)

宋財政部長の派員方申入れを台灣當局諒承に  
ついて

本省 12月22日後9時12分發

貴電公第一二一五号ニ関シ

台灣當局ニ於テモ派遣ニ異存ナク尚人選決定ノ上ハ其ノ氏

名經歷派遣日取等ヲ至急承知シ度趣ナリ

南京ニ轉電シ上海廈門へ暗送アリタシ

835 昭和5年12月29日 在上海村井總領事より  
幣原外務大臣宛

中國沿岸での漁業問題は漸次先鋭化の状況報告

機密第一八二九號

(昭和6年1月15日接受)

昭和五年十二月二十九日

在上海

總領事 村井 倉松〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

本邦漁船ノ中國近海ニ於ケル漁業問題ニ關スル件

本邦漁船ノ中國近海ニ於ケル漁業ニ對スル中國同業者ノ反

對運動ニ關シテハ屢次所報ノ通リナル處該運動ハ近來漸次尖銳化シ來リ外交部ニ於テモ客月二十五日附公文ヲ以テ之モ本問題成行ニ注意ヲ怠ラス最近上海ヲ根據トシテ中國近海ノ漁業ニ從事シ居ル本邦漁船ヲ內査セル處相當多數ニ上リタルヲ以テ近ク此等當業者ニ對シ最近ノ事態ヲ説明シ充分其ノ行動ヲ慎重ニスヘキ旨警告ヲ發スル積リナリシカ本二十九日ノ當地漢字新聞ハ「日本漁船越海捕魚調查」ナル大見出ノ下ニ中國側ノ調查ニ基ク上海ヲ根據トセル本邦漁船二十四艘ニ關シ其ノ船名、噸數、馬力、一回ノ漁獲高及所有者名等ヲ詳細掲載シ之等日本漁船ハ公然江蘇浙江兩省ノ沿海ニ於テ漁業ヲナシ漁獲物ヲ上海ニ搬入販賣シ居ル處日本内地ニ於テハ全國的不景氣ノ影響ヲ蒙リ魚類價格モ大跌落ヲ來シ居ルニ付日本漁業者ノ上海方面ニ進出スルモノ近時愈々增加ノ傾向アリ若シ此ノ儘放置スレハ中國領海權並ニ漁業利益ニ影響ヲ及ス處甚大ナルヲ以テ中國政府及人民ハ決シテ之ヲ輕視スヘカラスト論シ本件ニ關シ當地三興漁輪局、中華魚輪局及黃海魚輪公司等ハ南京實業部、江蘇農鑄廳及上海市政府等各機關ニ對シ日本漁船ノ漁業權侵略

ニ關シテハ從來屢々日本領事ト交渉ヲ重ネタルモ效果ナク又昨年冬期日本漁船ノ上海ニ於ケル魚類販賣ヲ防止スル目的ヲ以テ上海稅關ニ於テ其ノ魚類ニ對シ一擔ニ付一元五角ノ重稅ヲ課スルコト、セルモ尙之ヲ抑止スルニ足ラス近來日本漁船ノ上海ニ至ルモノ愈々增加シ來リ其ノ内容ハ甚タ組織的ニシテ中國魚商トモ相當ノ聯絡アルモノ、如シ吾等同業者ハ此ノ「喪權辱國」並ニ經濟上ノ壓迫ニ對シ默示ス

日本漁船ノ上海ニ至ルモノ愈々增加シ來リ其ノ内容ハ甚タ組織的ニシテ中國魚商トモ相當ノ聯絡アルモノ、如シ吾等同業者ハ此ノ「喪權辱國」並ニ經濟上ノ壓迫ニ對シ默示ス

ル能ハス茲ニ上海各魚商ニ命令シ日本漁船搬入魚類ノ買賣ヲ嚴禁シ徹底的抵制ノ實ヲ擧ケ以テ中國漁業ヲ保護シ主權ヲ保持セラレムコトヲ希望スル旨請願セル趣報道シ大イニ反對氣勢ヲ擧ケ居レリ別紙新聞切抜添付此段報告申進ス

本信寫送付先 北平 南京 芝罘 關東廳

#### 4 中国国号改称問題

836 昭和5年5月21日

在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

楊文書局長が国民政府紀念週で日本の「支那」

国号使用を批難について

南京 発  
本省 5月21日前着

第四二六號

十九日國民政府紀念週ニ於テ文書局長楊熙績ハ各種時事問題ニ付報告セルカ右ノ中日支關稅協定ニ關スル同人ノ演說要旨左ノ通

日支關稅協定ニ關シテハ我外交當局ハ今回受ケタル教訓ニ依リ今後條約ヲ締結スル場合ニ當リテハ國民政府組織法第

二十五條第二項ノ規定ヲ遵守スルト共ニ債權者代表會議召集ノ際ハ本黨ノ對外政策第四第六兩條ヲ充分注意シ重ネテ不都合ナキ様セサルヘカラス關稅協定ニ關シテモ自分ノ件ニ言ハント欲スル處ハ日本カ國際上ノ文書ニ於テ今尚我國ヲ指シテ支那ト稱セルコトナリ我方ハ彼ヲ大日本帝國ト稱

837 昭和5年6月24日

在上海重光總領事より  
幣原外務大臣宛

日本が外交文書で「支那」国号を使用してい  
る事を批難する新聞論調報告

（7月5日接受）

昭和五年六月二十四日

在上海

總領事 重光 葵 [印]